

※ 緑文字は職員へのアンケートを実施して成果を検証するものです。同様に、青文字は児童生徒へのアンケートで、赤文字は保護者へのアンケートで成果を検証します。

平成27年度 西都市立三納小中学校自己評価書と学校評議員による学校評価

【評価基準】4～期待以上 3～ほぼ期待どおり 2～やや期待を下回る 1～不十分

領域	評価項目	区分	評価指標または数値目標	結果	学校の自己評価と改善策	自己評価		学校関係者評価委員のコメント	評価	
						指標別	総合			
I 確かな学力の定着	① 学習指導の工夫改善	共	a 学業指導（立腰・発表・視写等）を徹底させる。 b めあてとまとめのある授業を実践する。 c 授業時間中に習熟の時間を必ず入れ、「わかりやすい」「楽しい」と答える児童生徒を70%以上にする。	a だいたい守られているが、徹底までには至っていない。 b ほとんどの職員が実践している。 c ほとんどの職員が習熟の時間を投入しており、「わかりやすい」と答えた児童生徒は90%以上、「楽しい」と答えた小学生は75%以上、中学生は80%以上だった。	ab 現在の取組を継続していく。 c 学習内容が難しくなり、「分かりやすい」「楽しい」と答えている児童生徒の割合は1学期より下がっているが、それでも70%以上を保っている。今の状況を続けていく。 d 毎日家庭学習をする児童生徒は多いので、「家庭学習の手引き」を活用しなくても実践できているのでは。 e ギャップはほとんどないと感じるが、小学校段階で英語ざらいが出てくる問題も出ている。	2.94	3.00	○ 参観日に授業を見学した。どの学年も生き生きと授業に参加していた。 ○ 中学校も参観したが、先生の問いにあまり反応しないのかなと思っていたが、特に英語の授業では、どんだん発言をしたり、発表したりして、活気のある授業で感動した。	3.5	
			d 「家庭学習の手引き」を活用して、毎日家庭学習をする児童生徒を90%以上にする。 e 乗り入れ授業の実施により、中1ギャップをなくす。	d 学習の手引きを活用しているのは、児童83%、生徒63%で、90%には至っていない。 e ギャップはほとんどないと感じるが、小学校段階で英語ざらいが出てくる問題も出ている。	d 毎日家庭学習をする児童生徒は多いので、「家庭学習の手引き」を活用しなくても実践できているのでは。 e より小中の教師の連携を図り、ギャップや英語ざらいに対応をしていく。	2.94				
			f チャレンジタイムを活用して、基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、CRTテスト等で、全国平均以上にする。 g 五七五集会を充実させ、宮日こども新聞に投稿する。	f チャレンジタイムを十分に活用しているが、学校一斉で取り組む内容などは決めていない。 g 宮日こども新聞への投稿の取組が1学期は遅かったので、2学期はもっと多数の児童の作品が掲載されるように、投稿した。	f CRTの結果などを元に、全校でチャレンジタイムに取り組む内容がある程度統一する。 g さらに継続して投稿し、投稿する回数も増やしていく。	3.00				
		小	h 全国や県、西都児湯地区で行われるテストにおいて管内最上位にする。	h 中学3年生は、常に管内最上位の成績を保っている。中2も県平均を上回っている。	h 現在の取組を継続し、学力向上に努める。	3.36				
			中	a 授業で、パソコンや大画面テレビ等の視聴覚機器を活用する。 b 教室内や廊下等の掲示物を充実させる。	a ほとんど職員が視聴覚機器を活用して、授業している。 b 掲示物は小中計画的にできている。	a さらに、視聴覚機器の効果的な活用を図っていく。				3.18
				共	c デジタル教科書を効果的に活用するための研修会を実施する。 d 毎月の貸出状況の集計結果を活かして、読書活動を推進する。 e 親子読書に取り組む家庭を70%以上にする。	c 市全体の研修を含めて、3回ほど夏季休業中に研修を行うことができた。 d 終業式では、各学年の多読賞の表彰を行い、読書活動の意欲付けを行うことができた。 e 親子読書に取り組んでいる家庭は約50%で、目標を下回った。				c 研修会で学んだことを活かして、さらに効果的な視聴覚機器の活用を図っていく。 e 今年度から親子読書の取組回数を毎週から月1回に変更した。取組が定着するまで継続して実践していく。
	② 視聴覚教育・図書館教育の充実	小	f 各自が1か月に1冊以上の本を読む。	f 図書室の本を1ヶ月に1冊以上読んでいる生徒は20%程度であり、個人差がある。	f 図書室の利用の促進を図る。月1回の読書週間を活用する。	2.46				
			中	a ふるさと学習（さいと学）を充実させる。 b 地域の自然や文化的素材、人材を教育活動に積極的に活用する。 c キャリア教育の研修を計画的に実施する。	a 中学校では職場体験や史跡探訪、小学校ではお米学習や歴史学習等、計画的にさいと学を実施できた。 b 地域の指導者の協力を得て、竹細工やネイチャーゲーム等実践できた。 c キャリア教育の研修は、実施できなかった。	ab 現在の取組を継続していく。 c キャリア教育の研修計画を立て、実施するよう努力する。	2.94			
				共	d 係や委員会活動ができているという児童を80%以上にする。 e 家で手伝いができているという児童を70%以上にする。	d アンケート結果では、94%以上の児童ができていると答え、1学期より上昇している。 e アンケート結果では、70%以上の児童ができていると答えた。	de 現在の取組を継続するようにしていく。	3.08		
		③ キャリア教育の推進	小	f 外部講師による講話を組み入れ、進路指導を充実させる。	f 全学年の生徒と保護者を対象に高校から講師を招き、高校説明会を実施した。職場体験の事前指導として、職業講話を実施した。働くことへの心構えを考えさせる良い機会となった。	f さらに充実を図っていく。	3.25			
				中	a 中学校では職場体験や史跡探訪、小学校ではお米学習や歴史学習等、計画的にさいと学を実施できた。 b 地域の指導者の協力を得て、竹細工やネイチャーゲーム等実践できた。 c キャリア教育の研修は、実施できなかった。	a さらに、視聴覚機器の効果的な活用を図っていく。 c 研修会で学んだことを活かして、さらに効果的な視聴覚機器の活用を図っていく。 e 今年度から親子読書の取組回数を毎週から月1回に変更した。取組が定着するまで継続して実践していく。	3.00			
			共	f 各自が1か月に1冊以上の本を読む。	f 図書室の本を1ヶ月に1冊以上読んでいる生徒は20%程度であり、個人差がある。	f 図書室の利用の促進を図る。月1回の読書週間を活用する。	2.46			